

2023年度 独創的研究助成費 実績報告書

2024年 3月 19日

報告者	学科名	現代福祉学科	職名	特任准教授	氏名	周防 美智子
研究課題	スクールソーシャルワーカーにおけるメゾレベル実践の現状と効果および課題					
研究組織	氏名	所属・職	専門分野	役割分担		
	代表	周防美智子	現代福祉学科・特任准教授	スクールソーシャルワーク	研究総括・研究会・調査分析・冊子作成	
	分担者	厨子健一	愛知教育大学福祉講座・准教授	スクールソーシャルワーク	研究会・調査分析・冊子作成	
研究実績の概要	<p>児童虐待や暴力行為、いじめ、不登校などの増加する中、子どもたちの課題に影響する背景の改善を目的として、文科省は2008年、全国でスクールソーシャルワーカー（以下、SSWerとする）活用事業を開始した。SSWer活用事業が始まり15年を経過したが、子どもたちの課題は増加の一方をたどっている。SSWerを増員すれば、子どもの課題の改善が期待できるとする提案も聞かれるが、個々の子どもの課題に対応できるSSWerの増員は不可能に近いと思われる。そこで、個々の課題に対応するマイクロレベルの実践、実践によって学校支援に変革をもたらすSSWerのアプローチが必要とされると考える。そこで、スクールソーシャルワークにおけるメゾレベル実践を可視化する必要性である。</p> <p>本研究では、SSWerのメゾレベル実践の実態検証し、学校や教員変化、実践の効果、課題について考察を行い、SSWer活用事業を行う教育委員会だけでなく、SSWer養成への提案を行いたい。</p> <p>SSWer活用事業は、事業を行う教育委員会により採用するSSWerの資格も様々で活用内容も異なることから、岡山県以外の都道府県の教育委員会SSWerも対象に調査を行うことで、研究の信憑性を高めることを目的に研究を開始した。</p> <p>《研究方法》</p> <ol style="list-style-type: none"> 研究会を立ち上げ、調査方法・内容について検討する。 SSWer活動に負担をかけないよう、学校休暇、学校行事で安定した8月・9月に調査を実施する。 調査結果について、研究分担者とともに分析を行う。 研究会にて研究結果をもとにメゾレベル実践について協議する。 研究報告書を製本し、調査対象の県市町・市町委員会に配布する。 研究成果を日本学校ソーシャルワーク学会に投稿する。 					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>以上の予定で開始したが、対象としていた地域でのインフルエンザの感染やコロナ感染が影響し、10・11のインタビュー調査後の調査が中断していた。今年に入り、調査方法を検討し直した。</p> <p>R6年3月に、今年度終えているインタビューを研究協力者と分析する。</p> <p>分析途中結果：メゾレベル実践のとらえ方に個人差がみられる。</p> <p>学校によっては、ミクロレベルの活動を求められるため、メゾレベルの活動に発展しない。</p> <p>SSWの効果的な活用が、地域によって異なる。</p> <p>課題から、メゾレベルの可視化の検討を図る。</p> <p>同月より、個別インタビュー、グループインタビューを再開し、SSWerのメゾレベル実践の実態検証、実践効果をまとめていく予定。</p> <p>本研究については、今年度の助成費用を活用し研究の準備ができている。来年度研究を継続し結果を出す予定でいる。</p>
<p>成果資料目録</p>	